

市立東城保育園 民営化へ

今後の市の保育方針に大きく影響か 「場当たり的だ」「サービス低下しないかなど厚生委で厳しい発言相次ぐ」

厚生常任委員会が7日に開催され、保育園の再配置計画などについて調査が行われました。市側から、市立東城保育園を社会福祉法人に移管する方針が示され、委員からは「民営化することに積極的な意義はあるのか」「場当たりの民営化だ」など厳しい発言が相次ぎました。

保育園は、現在、市内に公立、私立合わせて67園あります。このうち私立は18園です。平成24年3月に策定した、「上越市保育園の再配置に係わる計画」では、「公立保育園と私立保育園がバランスよく配置され共存できる環境の中で、公立私立を問わず保護者の価値観によって特色ある保育を選択できる状況を目指していく」としつつも、「保育園施設が構造的に今後とも使用可能で、安定した運営が見込める規模の公立保育園については、民営化を検討する」とし



ていました。（上は、平良木委員。下は東城保育園で）この日の委員会でも市側が示した計画では、平成27年4月1日に市立東城保育園を社会福祉法人「フランシスコ第三会マリア園」に移管するとしています。計画によると、保育園として10年間運営する条件をつけた上で、土地は無償貸付、建物、備品は無償譲渡となっています。引き継ぎについては、1年間かけて「引継保育」を実施することです。

質疑では、平良木委員が、「『再配置等に係わる計画』で公私の保育園をバランスよく配置するとしているが、現在の状態はバランスよく配置されているのではないか。できるだけ民営化するというが、民営化することに積極的な意義はあるのか」「今回の民営化について言うと、受ける法人の保育士の賃金総額だけを見てもぐんと下がる。市民サービスの低下につながるのか」「引継保育を1年間としているが、一般的には最低2年間設けるべきだと言われている。1年間とした根拠は何か」などと質問しました。

これに対して行政側は、「バランスに基準があるわけではなく、東城が私立の運営になったとしても、バランスが崩れるとは考えていない。市立の全部を民営化することを考えているわけではない。総合的な判断だ」「保育内容については、現在、東城でやっていることを実施することが大原則だ。宗教色を出さないことで了解を得ている」「引き継ぎの期間については、

明確な根拠があるわけではない。引き継ぎの様子を見ながら対応していきたい」などと答えました。

病院後援会理事会に池田副知事も

県立柿崎病院後援会の理事会が6日行われました。池田副知事や病院局関係者の方も参加されるなかで藤森病院長が講演、柿崎病院の取り組みなどについて紹介しました。院長先生の話の中で印象に残ったことのひとつは、地域医療の充実が必要な地域であるにもかかわらず、旧頸北地区には訪問看護ステーションがないことです。大きな問題だと思いました。

池田副知事が挨拶の中で、「県内の中だけで医師の争奪戦をやっているのはだめ。医師確保のためにはこの職場が魅力的だと思える環境作りを地域とともにやっていくことが大切」という指摘をされたのもうなずけました。



終了後、会費制の懇親会がホテルハマナスでありました。ここでは病院の職員さんたちや理事さん等とフランクな意見交換ができました。良かったです。写真は藤森先生の講演の様子です。



【レーズン入りリンゴ】冬は炬燵でお茶を飲むことが多くなります。2月にもなるとリンゴも傷んできます。そんな時、リンゴを干しブドウとともに茹でて「茶じょっぺ」として食べる。いい味ですよ。大島区旭地区にて1月30日撮影。

まさかと思いましたが、ほんとうでした。父と母がそれぞれ手紙を書き、ひとつの封筒に入れて私のところに送ってきてくれたのです。

先日のこと、市役所から私の事務所に戻ってみると、びっくりしましたね。机の上に現金書留の封筒が置いてあるじゃありませんか。現金書留と書かれた封筒は変色しつつありました。封筒は源郵便局から出されたもので、日時は昭和四三年一月八日の午前八時から一二時の間でした。宛先は新潟市古町十三番町に住んでいた私です。差出人は父の名前になっていましたが、文字は明らかに母が書いたものでした。

現金書留は、「金を送ってほしい」という私からの要請を受けて、送られてきたものでした。封筒の中に現金は入っていませんでしたが、便箋が入っていました。折りたたまれた便箋は普通の大きさのものが一枚、それよりもひと回り小さなものが一枚、あわせて二枚です。どうやら、母だけでなく誰かの手紙を書いたらしい。便箋を見た瞬間、ひよつとすれば父かも知れないと思っただけです。

折りたたまれた便箋を開いてうれしくなりました。大きな便箋には、青いインクで書かれた父のクセのある文字が並んでいたからです。そこには「御便り拝見致しました。元気の由何よりです。新大でもデモを始めた様ですが、なるべく避けて、休みに成ったら早く帰ってくることで。絶対ケガをせぬ様にすることです。毎日、妻が心配致して居ります。御金受取ってください。(五仟円也) 御身大切に。父より」(原文のまま)とありました。

母が書いた便箋は小さい方のものでした。体は小さいものの、母の書く文字は伸び伸びと書いて、きれいでした。母の手紙は、「其の後お元氣ですか、一生懸命勉強してください」から始まり、私のすぐ下の弟から便りがなく、布団を購入したことによる招待旅行で大東(おおひがし・屋号)のお母さんとともに福井県の永平寺へ行くことになったことなどが書いてありました。そして最後に、さりげなく、「けがをしない様に、お金入り用でしたら、又知らせてください」と書いてあったのです。

父と母が私のことを心配し、そろって手紙を書いてくれたことは、私の記憶の中には全く残っていませんでした。返事を書いたかどうかとも記憶していません。父の手紙にはデモの横にわざわざ線を引いてありましたから、デモに参加してケガでもしたらどうするんだという父の思いが強かったのでしょうか。

二枚の便箋が現金書留の封筒に入っていたのか、それとも別の封筒で送られてきたのかはわかりません。いずれにせよ、手紙にはお金のことも書いてありましたので、同時に書かれたものであることだけは確かです。

私は学生時代、月額五千元の新潟県奨学金を借り、アルバイトもしていました。大学一年生の頃は、下宿代だけでも月に一万五千元かかっていましたから、それだけでは足りず、実家からほぼ毎月送金してもらっていました。だから、現金書留の封筒は何十回も送られてきたはず。そういう中でこの昭和四三年一月二日のものだけなぜ残しておいたのか。めったに手紙を書かない父が私宛に書いた唯一のもので、しかも母と一緒に書いた手紙だったからではないかと推測しています。

四五年前の現金書留の封筒、今回も大潟区に住んでいる弟が見つけてくれました。電話で確認したところ、昨年見つけた大学入試時の電報と同じく、牛舎の二階にあったということ。私にとって大事な宝ものがまたひとつ増えました。

安心、安全な暮らしを実現する身近な県政を…新春のつどいで訴え

日本共産党後援会の新春のつどいが9日、高田の高陽荘と頸城の希望館で開かれ、参加してきました。高田会場には平良木議員の活動地域の人たちが、頸城会場には上野議員と

私の活動地域の人たちが大勢集まり、新しい年を祝い、今年も頑張ろうと決意を固めました。

両会場では私も挨拶させていただきました。私は、「多くの市民から、『県政、県議会は身近な感じがしない』という声を聞くが、私たちの暮らしに大きくかかわっている」とのべ、新潟県の医師数は10万人当たりで187人(厚労省の21年度地域保健医療基礎統計)で全国42位となっていることや柏崎刈羽原発が再稼働に向けて動き出していることなどを例に挙げながら、身近で、安心、安全な暮らしを実現していくうえで、上越市でも日本共産党県議を誕生させていくことは重要だと訴えました。



は、公正で競争性のある入札を実現するうえで大事なことだが、これは税金を市民の暮らしに活かすうえでも重要。上越市の落札率(昨年度は94%)を新潟市並みの88%に落とせば、年間7~8億円の財源が生まれるという試算もあることを紹介しました。(写真は高田会場で挨拶する私)

新春のつどいでは踊りや漫談、私の書いたエッセイの朗読、くじ引きなどもあり、とても楽しいつどいとなりました。ご参加いただいた皆さん、ご協力いただいた皆さん、ありがとうございました。

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果(測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常の範囲は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だということです。

	2月5日(水)	2月12日(水)
上越南消防署	0.036	0.030
上越北消防署	0.053	0.050
新井消防署	0.050	0.046
頸北消防署	0.070	0.060
頸南消防署	0.040	0.047
東頸消防署	0.056	0.053
高士分遣所	0.047	0.050
名立分遣所	0.053	0.047

また、12月に発覚したガス水道局発注の本支管工事における談合疑惑問題にも言及しました。この問題の徹底解明